

## 第163回南極地域観測統合推進本部総会 議事の記録

### 1. 日時

令和5年10月30日（月曜日）16時00分～17時30分

### 2. 場所

オンライン開催（文部科学省 研究開発局1会議室）

### 3. 出席者

（委員）

相川 哲也	日本学術会議事務局長
大木 章一	国土地理院長
大林 正典	気象庁長官（代理：山本 治 気象庁大気海洋部環境・海洋気象課課長補佐）
石井 昌平	海上保安庁長官（代理：吉田 剛 海上保安庁海洋情報部沿岸調査課長）
江淵 直人	国立大学法人北海道大学低温科学研究所 教授
大沢 直樹	国立大学法人大阪大学大学院工学研究科 教授
小山内 康人	国立大学法人九州大学 名誉教授
塩川 和夫	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学宇宙地球環境研究所 教授
瀧澤 美奈子	科学ジャーナリスト
福井 学	国立大学法人北海道大学低温科学研究所 教授
森本 真司	国立大学法人東北大学大学院理学研究科 教授

（幹事）

佐々木 亨	日本学術会議事務局参事官（審議第二担当）
川野 真稔	総務省国際戦略局技術政策課長 （代理：木村 友哉 総務省国際戦略局技術政策課専門職）
中川 勝広	国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所長
永井 雅規	文部科学省大臣官房審議官（研究開発局担当）
小野 賢志	文部科学省大臣官房広報室長（文部科学広報官）
新井 知彦	文部科学省研究開発局開発企画課長
山之内 裕哉	文部科学省研究開発局海洋地球課長
野木 義史	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所長

伊村 智 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所統括副所長

榎本 浩之 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長

堤 雅基 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長

平野 賢一 農林水産省政策統括官付貿易業務課長

川村 竜児 国土交通省総合政策局技術政策課長

河瀬 和重 国土地理院企画部長

飯野 悟 気象庁総務部総務課長  
(代理：居島 修 気象庁大気海洋部環境・海洋気象課南極観測事務室長)

早船 文久 海上保安庁総務部政務課長  
(代理：佐藤 勝彦 海上保安庁海洋情報部沿岸調査課課長補佐)

則久 雅司 環境省自然環境局自然環境計画課長  
(代理：市塚 友香 環境省自然環境局自然環境計画課専門官)

松山 理然 防衛省人事教育局人材育成課長  
(代理：日名子 勉 防衛省人事教育局人材育成室長)

(オブザーバー)

橋田 元 第 65 次南極地域観測隊長

佐藤 雄大 国土地理院企画部国際課長

塚本 康太 環境省自然環境局自然環境計画課国際森林・乾燥地・極地生態系保全対策係長

宮本 仁美 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所  
南極観測センターマネージャー (企画業務担当)

石井 裕之 防衛省海上幕僚監部防衛部運用支援課運用支援班

潟手 邦伸 防衛省海上幕僚監部防衛部運用支援課企画班

白山 義久 国立大学法人京都大学 名誉教授

(事務局)

山口 茂 文部科学省研究開発局海洋地球課極域科学企画官

細野 亮平 文部科学省研究開発局海洋地球課課長補佐

4. 議事：

(1) 永井文部科学省大臣官房審議官より挨拶があった。

(2) 事務局より、当日の議題・配布資料について確認があった。議題 8,9 については、人事に関わる案件のため、運営規則に基づき非公開の取扱いとすることになった。

(3) 以下の議題について、報告及び審議がなされ、審議事項について原案のとおり了承された。

#### 《報告事項》

1. 南極条約協議国会議（ATCM）等の状況について
2. 第 64 次南極地域観測隊越冬隊の現況について
3. 令和 6 年度南極地域観測事業概算要求の概要について

#### 《審議事項》

4. 南極地域観測第 IX 期 6 か年計画外部評価書（事後評価）（案）について
5. 第 65 次南極地域観測行動計画（案）等について
6. 南極条約第 7 条 5 に基づく事前通告のための電子情報交換システム（EIES）（案）について
7. 南極地名命名（案）について
8. 第 65 次南極地域観測隊同行者（案）について
9. 第 66 次南極地域観測隊長・副隊長候補者（案）について
10. その他

主な意見は以下のとおり。

#### （議論 5 第 65 次南極地域観測行動計画（案）等について）

##### 【塩川委員】

南極地域観測第 IX 期 6 か年計画外部評価書で S 評価が得られたサブテーマ 1「南極大気精密観測から探る全球大気システム」やサブテーマ 2「氷床・海水縁辺域の総合観測から迫る大気」等は、第 65 次南極地域観測隊にてどのように受け継がれる予定か、また PANSY レーダーを今後どのように運用する予定か。

##### 【橋田第 65 次南極地域観測隊長】

第 IX 期計画は第 X 計画に受け継がれ、旧サブテーマ 1 は新サブテーマ 3 に、旧サブテーマ 2 に近いものが新サブテーマ 2 に、旧サブテーマ 3 は新サブテーマ 1 に引き継がれている。新サブテーマ 3 は気候変動の主要因である大気大循環変動を定量的に理解することが目的となっており、PANSY レーダーを引き続き通年フルシステムで運用する予定である。また PANSY レーダーだけでなく電波観測や光学観測、先進的なリモートセンシング等を織り交ぜながら複合的な観測を継続していく。

特に第 65 次南極地域観測隊では、スーパープレッシャー気球による観測を予定している。高度 18 キロ程度を長時間飛行し続けるので、PANSY レーダーの領域を補うサンプルデータが得られることを期待している。また宇宙環境変動としてオーロラ撮影を行うが、今までより高精度なカメラを使用し、領域を広げて観測する予定である。

(議題9 第66次南極地域観測隊長・副隊長候補者(案)について)

【江淵委員】

例年副隊長は2名体制であったと思うが第66次隊は1名体制で進める予定か。

【野木国立極地研究所長】

副隊長は最終的にもう1名推薦し、2名体制にする予定である。

(4)事務局から次回の総会は令和6年6月を予定しており、それまでの間、緊急を要する案件などについては、本部連絡会に一任いただく旨の連絡があった。

— 了 —